

本音インタビュー

東京工業高等専門学校教授

河村 豊氏

島田の電波兵器研究遺構

太平洋戦争時、戦況挽回を図った旧海軍が島田市で研究を進めた秘密兵器「強力電波兵器」。数少ない痕跡として現代に残る同市の「牛尾実験所跡」が国土交通省による大井川の治水工事で失われることになり、にわかに注目が高まっている。



かわむら・ゆたか 専門は科学史。論文に「敗戦時『引渡目録』にみるZ兵器開発の状況—島田実験所・牛尾実験所の施設と備品」(2008年)など。東京都八王子市。57歳。

島田の存在とは。「戦況の悪化で画期的な新兵器の開発が必要となった旧海軍が、強力な電波を発生させるマグネトロン

周知して意義問うべき

(磁電管)の出力を上昇させる基礎研究を行ったのが海軍技術研究所島田分室(現在の特種東海製紙敷地内)だった。原爆開発を断念し

の存在は資料で知っていたが、資料に一切なかったパラボラ反射鏡の台座のコンクリートが今出てきたことに驚いた。資料にない物は、現代の私たちが景気が

悪いから何とか画期的な商品を作ろうというのに似ている。実はバブルの時代には科学技術はあまり発展しなかったが、コンクリートの台座を目の当たりにして、これは本当にやるつもりだったのだと確信できた

「成果は戦後、電子レンジなどにも応用された。秘密兵器研究の科学史上の意義は。」「危機下でこそ懸命に態勢を作り、画期的な兵器を開発しようとする考え方は、現代の私たちが景気が

た物理学者たちも加わり、後にノーベル賞を受賞する朝永振一郎ら一流の物理学者が島田に出入りした。1945年に第二海軍技術廠(しよ)島田実験所と名称が変わり、牛尾山や崎平(現川根本町)にも実験所の整備や疎開が進められた」

牛尾山に残る牛尾実験所跡の価値は。「変電室や電源室、発振室の存在は資料で知っていたが、資料に一切なかったパラボラ反射鏡の台座のコンクリートが今出てきたことに驚いた。資料にない物は、現代の私たちが景気が

悪いから何とか画期的な商品を作ろうというのに似ている。実はバブルの時代には科学技術はあまり発展しなかったが、コンクリートの台座を目の当たりにして、これは本当にやるつもりだったのだと確信できた」

「成果は戦後、電子レンジなどにも応用された。秘密兵器研究の科学史上の意義は。」「危機下でこそ懸命に態勢を作り、画期的な兵器を開発しようとする考え方は、現代の私たちが景気が

「変電室や電源室、発振室

の存在は資料で知っていたが、資料に一切なかったパ

悪いから何とか画期的な商品を作ろうというのに似ている。

「今年には島田に実験所ができてちょうど70年目。牛尾実験所跡では初の発掘調査も行われる。こうした機会を捉えて戦争中に島田で何が行われていたかを振り返り、その意味を現代に問い掛けることが必要だ。牛尾実験所跡の存在が表に出たのはつい最近で、まだ多くの研究者が存在を知らない。研究者が存在を知り、現地を見る時間の余裕がもう少しあってもいい。多くの人々が存在を知ることによって新たな研究や展開につながるかもしれない」

(聞き手)

島田支局・鈴木誠之

来年度にも牛尾実験所跡が失われる。」「今年には島田に実験所ができてちょうど70年目。牛尾実験所跡では初の発掘調査も行われる。こうした機会を捉えて戦争中に島田で何が行われていたかを振り返り、その意味を現代に問い掛けることが必要だ。牛尾実験所跡の存在が表に出たのはつい最近で、まだ多くの研究者が存在を知らない。研究者が存在を知り、現地を見る時間の余裕がもう少しあってもいい。多くの人々が存在を知ることによって新たな研究や展開につながるかもしれない」